

一般的な使用（抽出）手順

推奨される使用のガイドライン

	一般的なメソッド開発手順			
	Step 1- コンディショニング	Step 2- サンプルロード	Step 3- 洗浄	Step 4- 溶出
逆相の溶出手順 メカニズム：極性の試料マトリックス中の中極性化合物～無極性化合物を結合する。	メタノール、続いて脱イオン水、もしくはバッファー液	流量 1～5mL/分 でサンプルを注入。	脱イオン水、もしくは水：メタノール (95:5) などの極性溶媒	メタノールもしくはアセトニトリル。強酸、もしくは強塩を有機溶媒に追加して二次相互作用を壊すことが必要な場合あり。
順相の溶出手順 メカニズム：無極性の試料マトリックス中の極性化合物を結合する。	無極性溶媒	流量 1～5mL/分 でサンプルを注入。	ヘキサン、もしくはヘキサン:IPA(98:2)	IPA、酢酸エチル、アセトン、もしくはヘキサン：IPA (50：50)
イオン交換溶出手順 メカニズム：荷電化合物（負 / アニオン、正 / カチオン）を結合する。	脱イオン水もしくはイオン強度の低い (0.001M～0.01M) バッファー液	低速で加える：流量 1mL/分以下。 イオン交換反応速度は逆相や順相よりも遅い。	メタノール：低イオン強度 (0.1M) バッファー (10:90)	イオン強度の高い (0.1M～0.5M) バッファー、もしくは検体を荷電させない程度の pH 値に調整する。場合によっては、相互作用を防ぐために有機成分を加える必要がある。

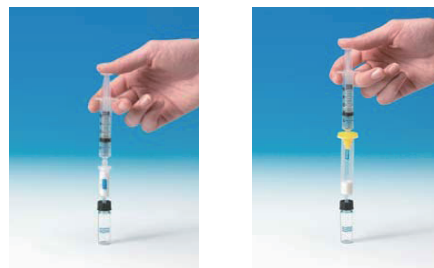
推奨される使用のガイドライン									
充てん床容量：	50mg	100mg	200mg	500mg	1,000mg	2,000mg	5,000mg	10,000mg	
充てん剤の保持容量	2.5mg	5mg	10mg	25mg	50mg	100mg	250mg	500mg	
コンディショニング溶媒量 (充てん床容量 x 4)	0.30mL	0.60mL	1.20mL	3.00mL	6.00mL	12.00mL	30.00mL	60.00mL	
洗浄溶媒量 (充てん床容量 x 6)	0.45mL	0.90mL	1.80mL	4.50mL	9.00mL	18.00mL	45.00mL	90.00mL	
最少溶出溶媒量 (充てん床容量 x 3)	0.23mL	0.45mL	0.90mL	2.25mL	4.50mL	9.00mL	22.50mL	45.00mL	

* 推定値ですので、アプリケーションに合わせて最適化してください。

固相抽出の処理方法

シリンジを使用

- ・ 個々のサンプルを処理する場合は、ルアハブ型シリンジで処理します。
- ・ Maxi-Clean™ にはシリンジをダイレクトに使用できます。
- ・ Extract-Clean™ にはインレットにシリンジアダプタを取り付けて使用します。



シリンジアダプタをご参照ください。

真空マニフォルドを使用

- ・ 複数のサンプルを同時に処理する場合は、真空マニフォルドを使用します。
- ・ エンプティリザーバを取り付ければ、サンプル容量を増やすことも可能です。

真空マニフォルドとエンプティリザーバをご参照ください。

